

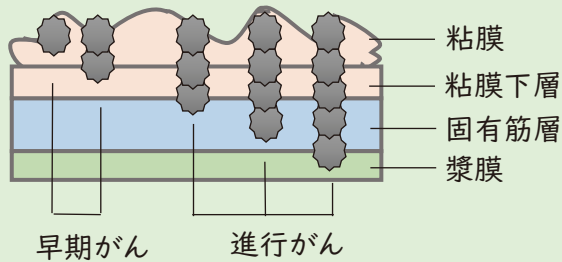
## 胃がんの状況

津市の全がんの中で胃がんで亡くなる人の数で多い順位は、男性「第3位」、女性「第5位」（令和元年時点）です。以前に比べると、胃がんで亡くなっている人の割合は減っていますが、命にかかわることが多いがんに含まれます。

がんの部位別死亡数(令和元年)【津市】

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓
女性	肺	膵臓	大腸	乳房	胃

津保健所年報より



胃がんは、胃壁の内側にある粘膜に発生します。

がん細胞が粘膜または粘膜下層にとどまっているものを「早期胃がん」、筋層より深く達したものを「進行胃がん」といいます。

【参考：日本医師会ホームページ】

「胃がん」「がん検診」などのがん情報についてもっと詳しく知りたい方は、国立がん研究センターのがん情報サービスをご覧ください。

国立がん研究センター  
がん情報サービス

ganjoho.jp



### ～個人情報の取り扱い～

がん検診結果や精密検査の結果は、厚生労働省等の指針・ガイドラインに基づいて、市へ報告されます。

がん検診を受けた医療機関以外で精密検査を受診した場合は、検診と精密検査を受診した医療機関間で結果を共有することがあります。

受診者の氏名や住所は、がん検診のアンケートや精密検査の受診勧奨通知等に利用することがあります。

津市や三重県の健康推進を目的に、がん検診や精密検査の結果について統計的な処理を行い、公表することがありますが、その場合個人が特定されることはありません。

津市 健康づくり課 令和4年6月作成



# 胃がん検診

(胃内視鏡検査)

これから受ける  
検査のこと

を受診される方へ

早期発見・早期治療で命を守る



## 胃がん検診の有効性

津市が推奨する胃がん検診（胃内視鏡検査）は、「死亡率を減少させることが科学的に証明された」有効な検診です。

しかし、がんが見つげにくい場所にある場合や見つげにくい形をしている場合には発見できないことがあります。反対に、がんでなくても「要精検」と判定され、死に至らないがんが見つかったために、 unnecessaryな治療を受けることがあります。また、がんが見つからない場合もあります。

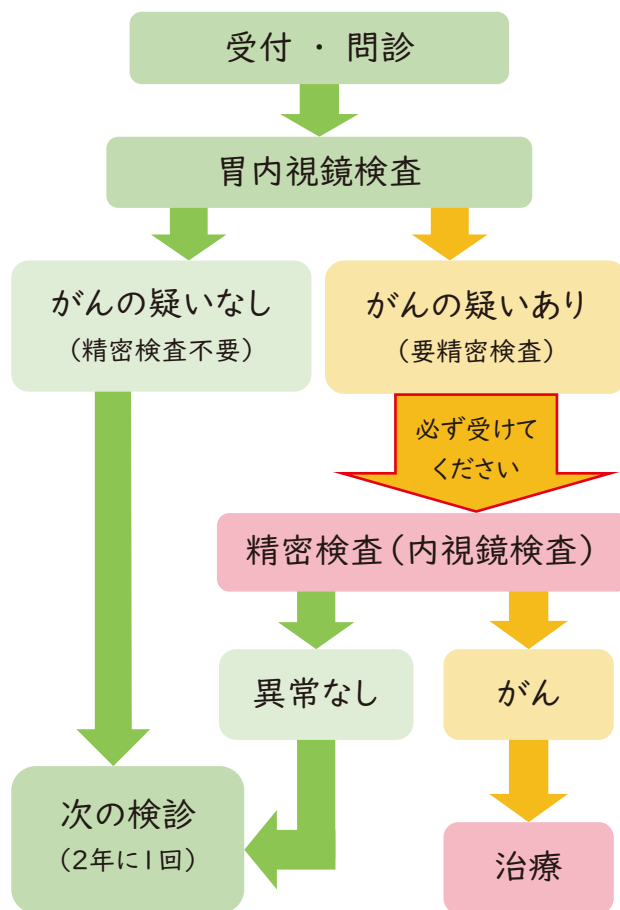
胃がん検診は、低い確率で起こるデメリットよりも、がんで亡くなることを防ぐメリットが大きいことが証明されています。

50歳以上の人は、2年に1度検診を受けることが大切です。

胃がんは、ごく初期の段階では自覚症状がほとんどなく、また進行していても症状がない場合もあります。少しでも胃の痛み、不快感、食欲不振などの違和感を感じるがあれば、医療機関を受診しましょう。

自覚症状がない場合は、定期的に検診を受けることで、がんを発見できる確率は高まります。

## 胃がん検診の流れ



津市では、国の指針に基づき、判定の精度を高めるため、2人の医師が判定を行う二重読影を行っています。そのため、検診結果の返却には1か月程度かかります。

## 胃内視鏡検査

口または鼻から胃の中に内視鏡を挿入して、胃の内部を観察する検査です。



粘膜の変化も鮮明に見えることから、凹凸の少ない病変や出血なども確認することができます。

内視鏡を挿入する痛みを軽減するための麻酔薬や、胃の動きを抑える薬などを利用します。薬剤アレルギーや持病がある方はご相談ください。

検査当日は、食事や飲料の摂取制限があります。受診する医療機関の指示に従ってください。



## 精密検査は必ず受けましょう！

検査の結果、要精密検査となった場合には、必ず検診を受けた医療機関に相談してください。

## 精密検査の方法

### 《胃内視鏡検査》

今回のがん検診と同様の検査です。がん検診と精密検査を同時に行うことがあります。また、がん検診当日に体調不良等で十分な内視鏡検査が出来なかった場合、再度、内視鏡検査を行うことがあります。

### 《生検》

生検とは、組織を採取し、悪性かどうか調べる検査です。

\*精密検査は、検診時に同時に行う生検や胃内視鏡検査の再検査があります。